

竹島ふ頭港湾情報拠点施設設計業務プロポーザル 審査結果報告書

令和 8 年 8 月

竹島ふ頭港湾情報拠点施設設計業務プロポーザル方式

業者選定委員会

1 審査概要

本事業のプロポーザルでは、各分野を代表する 5 名の選定委員による選定委員会により、公募要領等を策定の上、一次審査及び二次審査を行い、慎重かつ厳正に審査しました。

2 選定結果

選定委員会が選定した優先交渉権者等は以下のとおりです。

(1) 優先交渉権者

株式会社石上純也建築設計事務所

(2) 次点交渉権者

株式会社畑友洋建築設計事務所

3 審査経過

(1) 第 1 回選定委員会

日程：令和 8 年 4 月 10 日（金）

場所：オンライン会議

内容：公募要領・審査基準の協議

(2) 参加資格審査

内容：令和 8 年 5 月 18 日（月）午後 3 時までに提出された応募申込書類により、参加資格を有しているか確認を行いました。応募申込者数（辞退届提出者を除く）は 62 者でした。

令和 8 年 5 月 20 日（水）に結果通知を行いました。

(3) 第 2 回選定委員会（一次審査）

日程：令和 8 年 6 月 3 日（水）

場所：蒲郡市役所 本館 3 階 302 会議室

概要：一次審査提案書の事前提出数は 60 者でした。

（一次審査）一次審査の進行は、委員長が行いました。

最初に、設計条件、留意事項、要領違反等を共有しました。

審査の第一段階として、各選定委員が最大 10 票の投票を行うこととしました。

各委員は、全 60 者の提案書を書面で確認しながら、候補の選定を行い、投票を行いました。

各委員による投票を合わせた集計を行い、集計結果を共有しました。

投票が無かった提案書を除き、得票数の少ない提案書から順番に、票を入れた委員が提案に対する講評を添え、意見交換を行いました。

最終的には、得票数に拘らずに優れた提案能力を持つと思われるものを選ぶべく、委員間の評価軸の多様性を尊重し、真摯な議論を行い、二次審査対象者を選定しました。6番目の作品を二次審査対象とするか議論し、二次審査対象者を6者としました。

(審査後)選定委員会は、一次審査結果の公表、二次審査に向けた詳細検討要請事項、二次審査の実施要領の内容を全員で確認しました。

【一次審査結果】		※得票があった者のみ掲載します。	
No	プロポーザル登録番号	得票数	一次審査結果
9	JS00001185	3	二次審査対象者
31	JS00003713	3	
47	JS00005415	3	二次審査対象者
54	JS00006167	3	二次審査対象者
6	JS00000856	2	
15	JS00001960	2	
21	JS00002509	2	
22	JS00002796	2	
23	JS00002857	2	二次審査対象者
29	JS00003560	2	
33	JS00003978	2	
34	JS00004052	2	二次審査対象者
50	JS00005701	2	
53	JS00006094	2	
55	JS00006273	2	
4	JS00000556	1	
5	JS00000794	1	
10	JS00001282	1	
12	JS00001403	1	
14	JS00001791	1	
17	JS00002100	1	二次審査対象者
18	JS00002211	1	
19	JS00002305	1	
20	JS00002401	1	
43	JS00005039	1	
45	JS00005216	1	
56	JS00006313	1	

(4) 第3回選定委員会（二次審査）

日程： 令和8年7月8日（水）

場所： 蒲郡市役所 本館3階 会場： 303会議室、審議： 302会議室

概要： 提案書について、1者当たり15分の公開プレゼンテーションと質疑応答を6者順番（順番は、当日の朝、参加者によるくじ引きで決定）に行いました。続けて全提案者の管理技術者と選定委員により、おおよそ60分の公開ディスカッションを行いました。

ディスカッション終了後、提案書並びにプレゼンテーション、ヒアリング及びディスカッションなどを踏まえ、非公開にて審議を行いました。各提案に対する評価点と課題点について各委員の所見を開示しながら、これらの意見や考え方について十分な議論を行いました。二度の投票を行い、丁寧な合意形成を図った上で、優先交渉権者等の選定を行いました。厳正な審議の結果、優先交渉権者に株式会社石上純也建築設計事務所を選定し、続いて、次点交渉権者に株式会社畑友洋建築設計事務所を選定しました。

【二次審査結果】

法人名・登録番号（※発表順）	合計（100点中）	順位
株式会社NTT ファシリティーズ JS00006167	77.80	3
ジオ-グラフィック・デザイン・ラボ JS00002100	75.80	4
株式会社石上純也建築設計事務所 JS00004052	83.40	1
株式会社畑友洋建築設計事務所 JS00002857	82.20	2
合同会社斎藤信吾建築設計事務所 JS00001185	67.80	6
有限会社乾久美子建築設計事務所 JS00005415	75.80	4

4 講評

(1) ご挨拶

総評にあたりまして、まず最初に 60 社の皆様にご参加いただいたことに感謝申し上げます。設計プロポーザルは当該事業の遂行にあたって最適な設計者を選定するという性格上、たった 1 社の設計者案のみが実施の日の目を見るわけではありますが、しかし、その他多くの提出案に掛けられた時間と労力ほど、尊いものはないと考えています。提出に臨まれた設計事務所の代表者だけではなく、その総案を支えた若い設計スタッフらの想いも、優先交渉権者は背負っていく必要があります。

多大なる時間と労力を掛けて頂いた全ての提案者の皆様、誠にありがとうございました。

(2) 個別講評（二次審査対象者）

- ・株式会社石上純也建築設計事務所《優先交渉権者》

屋根というものを超えた、外とも中とも分らない、新しい概念、新しい場所をつくり出していることが評価されました。また蒲郡駅からの視線含めて遠方からも把握しやすいこと、蒲郡市の新しいアイコンとしての存在感を持っていること、なども評価されました。屋根の下に新しいアクティビティが生まれるであろうことは大きく評価されました。提案書の密度、特にコスト計画の説明は非常に詳細で、この提案にかかる本気度と実現への執念を感じ取ることができました。

一方選定委員会では以下の懸念事項をリストアップしています。契約付帯事項として受け入れていただくことになります。

- ① コスト計画：設計期間が短い中でコストの上限に納めてください。直接工事費の説明は実現性の高いものですが、工事管理費、共通費などの経費項目の割合が低いものと見受けられます。設計期間が短い中ではありますが、現提案と減額案を同時に検討するなど、設計工期内で積算まで完了するようにお願いします。
- ② メンテナンス計画：改修頻度と手間を考慮した、この建物の特性に合わせた、新しいメンテナンス計画を提示してください。
- ③ 市民の合意形成：住民説明会などからの意見集約を元にして、地元住民の方々を中心に、蒲郡市に新しいアイコンが出来ることを地元住民にきちんと納得いただくことを期待しています。

- ・株式会社畑友洋建築設計事務所《次点交渉権者》

小さな屋根を高さを変えて設置し、水平面として計画地全体へ展開、高さ方向にずれた隙間から屋根下の活動空間に光が差し込むという意欲的な案

でした。屋根形状に呼応して計画された各拠点施設も使いやすい平面形状で、プロポーザル与件を丁寧にまとめていることに高評価を得ました。一方で蒲郡市の新しいアイコンとしての場所をつくり得ているのか、新しい可能性をつくり得ているのかという点は選定委員会において最後まで議論となり、惜しくも次点となりました。

(以下、発表順)

・株式会社NTT ファシリティーズ

建物とテンションワイヤーによって計画地全体を覆うことで、室内と室外を同じコンセプトでシームレスにつなぎ、内外の拡張を図ることで室内に留まらないアクティビティの創出を狙った提案でした。建物形態は竹島を意図したボリュームで整えられ、地域の風景にも馴染むことが予想され、高評価を得ました。一方でワイヤー下部の空間についての議論があり、そのアクティビティは吊り下げるものの更新頻度に委ねられてしまうのではという意見や、その更新は誰が主体となって行うのか、またワイヤーがあることによって、埠頭本来の本質的なフレキシビリティが損なわれてしまっているのでは、という意見もあり、残念ながら選定に至りませんでした。

・ジオグラフィック・デザイン・ラボ

有機的な屋根形態、軒下から周囲へと広がる豊かな視野空間が特徴的な提案でした。意匠計画に対しての構造計画も理にかなったものと言え、一次審査における選定委員会の評価は、投票時よりも投票後の討議時に評価が進み、二次選定案へと進みました。二次審査において議論となったのは、屋根下拠点施設の平面計画が、屋根の意匠計画とどう呼応しているのかについてでした。拠点施設群は平面中央に集中していますが、その平面形にて屋根下部のアクティビティが作れているのかが議論となりました。また、屋根の外部にいと屋根下を超えて向こう側を見通せない計画となっていることも議論され、選定に至りませんでした。

・合同会社斎藤信吾建築設計事務所

屋根の中央に大きな孔を開け、中庭を作って植栽帯を配置、中央に通路を通して敷地全体の回遊性を計画することで、屋根の下に多様な場所を用意し、周囲の風景との一体感を創出する提案でした。敷地周囲の景色を丁寧に読み取った平面計画に高評価を得ました。一方で屋根下に要求された広場空間が分散している印象があり、再計画によってその空間を得るとなると、本提案では魅力的な要素である屋根の孔とコンセプトが重ならないという意見や、

構法、構造計画として提案力に欠けるという意見もあり、選定には至りませんでした。

- ・有限会社乾久美子建築設計事務所

屋根面全体を樋状のルーバー材にて構成、日光を遮ると同時に雨水も受け止め、かつ隙間から空気も環流させるという、建築部材の性能を突き詰めることで建物全体を環境装置として計画するという提案でした。提案書に記載された検討内容は精緻で、そのアプローチ手法には選定委員からは大きな評価を受けました。一方で屋根のディテールや性能は評価が高かったものの、屋根と拠点施設群との関係が消極的なのではないかと問う意見もあり、残念ながら選定に至りませんでした。

5 選定委員会構成

選定委員会（分野別・五十音順・敬称略）

区分 氏名 所属等 （分野）

委員長 遠藤克彦：茨城大学教授、遠藤克彦建築研究所代表（建築）

副委員長 秀島栄三：東港地区まちづくり協議会委員長、
名古屋工業大学大学院教授（港湾）

委員 忽那裕樹：E-DESIGN 代表取締役（まちづくり・ランドスケープ）

委員 佐藤 淳：東京大学教授、佐藤淳構造設計事務所技術顧問（構造）

委員 贅 年宏：蒲郡市 副市長

参考 公募型プロポーザルの経緯

令和8年4月10日 第1回選定委員会

令和8年4月24日 公告

令和8年5月8日 現地説明会

令和8年5月18日 応募申込書類の提出期限

令和8年5月27日 一次審査書類の提出期限

令和8年6月3日 第2回選定委員会

(一次審査) 二次審査対象者の選定(6者)

令和8年6月4日 一次審査結果公表・通知

令和8年7月1日 二次審査書類の提出期限6者提出

令和8年7月8日 第3回選定委員会

(二次審査)

プレゼンテーション(公開)

質疑応答(公開)

ディスカッション(公開)

優先交渉権者等の選定(非公開)